



学校だより

令和 6 年 11 月 吉日
上越市立有田小学校
校長 野田 晃

「よいところ」を見る目と伝える心

音楽発表会に対して非常に多くの保護者や地域の皆様から、「素晴らしい合唱・合奏でした」「感動しました」等のご感想をいただきました。どの子も真剣な表情、やる気が体中から出ていました。どの学年も、その学年のカラーが出ていました。よさが出ていました。子どもたちが気持ちを一つにして取り組んできた成果です。また、音楽発表会での子どもたちの姿は、音楽発表会に向けた練習だけでは育てることはできません。今までの学校生活や家庭生活で得た豊かな体験、様々な困難を乗り越えて得た自信等が、大きな歌声となり、堂々とした演奏となり、音として曲として形となり、一人一人の姿として表れたものと言えます。保護者の皆様、地域の皆様から、有田小学校の教職員を信頼し、教育活動に対して積極的にご支援・ご協力をいただいていたお陰です。ありがとうございました。

「よかったよ」「すごかった」「素晴らしい」と言ってもらえることは、子どもたちにとって、とてもうれしいことです。やる気が出ます。元気がでます。自信が高まります。頑張っていく勇気が出ます。「よいところを伝える」ことの教育的な効果は絶大です。

11月の月別なかよし目標は「よいところを伝え合おう」です。全校で取り組んでいます。友達のよいところを伝えられる子になってほしいです。また、たくさんの友達からよいところを伝えてもらいたいと思います。認め合い高め合う有田小学校になってほしいと願っています。また、自分に対して自信をもち、誰からも愛される人になってほしいです。

しかしながら、「よいところを伝える」ことは難しいことだとも思います。私もなかなか大人同士だと伝えることができません。照れくさいものです。「その服すてきですね」「いつも元気ですね」など、思っても言葉にできないことが多いです。よいところを見る目と、よいところを相手に伝えたいという気持ちが強くないと言えないものなのかもしれません。

また、私たち人間は、よいところではなく「悪いところ」に目が行くものです。例えば、発表会の練習をしているとき、動かず真剣に演奏している子ではなく、ふらふらしたり動いたりしている子に注目してしまいます。真剣に頑張っている多くの子どもたちを褒めずに、ふらふらしたり動いたりする子を指導したくなります。子どものよいところが見えずに、悪いところに注目してしまうのです。子どもたちも同じです。異質なことに目がいきます。だから、他の人との違いが気になったり、その違いを変だと思ったりします。「うざい」「バカじゃない」「かっこ悪い」「へたくそ」など、相手が異質だと思ったときに口から出てくる言葉です。そういう悪口は、その子にとって「うそ」ではなく「本当に異質だと思っている」ので自然に口から出てしまうのでしょう。悪口を言うと友達は傷つきます。友達は離れていきます。またはケンカやいじめにつながります。子どものために「悪口」を言うことをやめさせたいのですが、なかなかなくなるのは、本質的に人は悪いところに注目してしまうからなのかもしれません。悪いところではなく「よいところ」を見る力を育てたいです。

「よいところを伝え合おう」という取組は一見簡単そうですが、非常に難しいことだと、私は思います。繰り返し「よいところを伝え合う」活動を通して、子どもたちに「よいところを見る目と伝える心」を育てていきます。また、まず、私たちが悪いところではなく、よいところを見付けて子どもたちに伝え、範を示していきたいと思います。